

令和5年度 苫小牧市図書館協議会定例会

令和5年6月13日（火）午後2時

苫小牧市立中央図書館 2階講堂

【議事】

- 議長 それでは、早速、議事を進めてまいりたいと思います。（1）令和4年度事業報告についてご説明をお願いします。

<中央図書館長より資料に基づいて説明>

- 議長 ありがとうございます。
ただいま説明のありました令和4年度の事業報告について、ご意見やご質問がありましたらお願いします。
- 委員 資料1に書かれているいろいろな事業ですが、大人の方を対象にした事業が入ってきたことを喜ばしく思っています。今までは子どもと一緒に図書館のいろいろな行事に参加できていたんですが、子どもの手が離れてしまうと、なかなか図書館に関わるということが少なくなってきたので、この大人向けというものは参加しやすいなと感じました。新規の方が来ていただけるということで、とてもいいと思います。
あと、ヤングアダルトの方たちも何か参加できるようなものがあつたらいいなと思っています。ちょっと年代が違うので具体的な内容はお示しできないのですが、例えばラノベと一般的に呼ばれているような若者向けの本の作者さんをお呼びするようなイベントなど、いろいろなものがあつたらいいかなと感じています
- 委員 重点事業で言葉的に分からないところがありますので、ご説明いただければと思います。
一つ目、「ミッション速く走るコツを身に着ける」というこの言葉、図書館の中で速く走るというのは、一般的にそぐわないと思いますが、これはどういう意図なのでしょう。
二つ目の「ポップとひとはこ図書館」、この「ひとはこ」というのは、皆さんご承知なのでしょう。どのような意味か教えていただきたい。あと「図

書館DE落語」や7番目の「エンディングノート」は、割と高齢者向けのイベントだと思いますが、参加人数が非常に多い。2番の「ポップとひとはこ図書館」も多いのですが、こういったところの参加者に対する手応えと、先ほどご質問ありましたように、ヤングアダルトと呼ばれる10代の方を引き込む方策との関連性など、そういったところをお聞きできればと思います。

○館長 まずは駆けっこですが、図書館はやはり文学や読書が好きという文系のお子さんが多く来館されますので、いつも来ていないような体育会系の子どもたちにも図書館に来ていただきたいという思いも込めて令和4年度から駆けっこ教室を行いました。駆けっこ教室をする前に、体の仕組みの本や速く走るコツの本などの読み聞かせも交えることで、図書館で開催する意義を持たせています。

ひとはこ図書館に関しましては、段ボール1箱を図書館に見立てまして、ミニ館長になっていただきます。本の選書から箱の装飾、全てを自分たちでアレンジし、ミニ図書館の館長として1か月手をかけていただくという企画です。こちらはヤングアダルト世代の方々にも参加していただいて、ひとはこ図書館の館長になっていただきました。

先ほどお話がありました落語とエンディングノートに関しましては、委員からもお話があったように、一般向けの事業も多くしたいとの考えから実施しました。参加募集後、即時定員になったことから、需要があることを再認識いたしましたので、今後も一般のお客様向けの事業も展開していきたいと考えています。

○委員 「ひとはこ」は心理学の1箱という意味ではないんですね。わかりました。あと、この駆けっこするというのは、外で行うのでしょうか。

○館長 中央図書館はロケーションが良いところがございますので、図書館前の公園で行いました。

○議長 新聞記事で拝見したんですけれども、図書館でイベントをすることで、ふだんは図書館に足を運ばない人もイベントに参加してみるという動機から来ていただき、そして、図書館を楽しんで帰っていただくという、そのきっかけづくりとして素晴らしい企画がたくさんあったなと思っていました。「図書館を駆け抜ける！」なんて、このネーミングも素晴らしいなと思います。また今後もよろしくお願いします。

ほか、何かございますか。

○委員 私たちは図書館でいろいろな行事をやっていることを知っていますが、資

料別紙3に新聞記事も出ていますが、若い人たちは新聞を取っていない方が多い。それと広報とまこまいも、私は広報とまこまいを仕事上必ず最初から最後まで読むんですけども、図書館のイベント案内のところなども細かくて、本当に行きたい方はそこを見erと思ひますが、広報の中で広く図書館がこういうところですよ、というPRをする機会はつくれないのかなとよく思っていたので、これからのPRの方法として何か新たな視点で考えていることはあるのかなと思ひました。

○議長 Y A世代に特にPRしたいと思ひたときの方法は、私も仕事上いつも悩むんですけども、高校や中学校にポスターを貼ったりSNSで発信したりしてみるんですが、なかなか絵に描いたようにはうまくいかないというのが悩みどころかなと思ひます。

何か今後に向けてございますか。

○館長 昨年度は図書館でもTwitterの活用を重点的に行いました。若い世代の方々には興味を示していただきまして、Twitterで見たのでこの本を借りたいというようなお声も入っています。ただ、図書館は公共施設ですので、ほかの世代の取りこぼしもないようにと、新たに町内会便りにイベント情報の掲載依頼を行うなど、アナログのほうにも事業展開いたしました。多方面からの発信を心がけて、状況を注視しているところです。

○議長 ほかに何かございますか。

なければ、議題の(2)に移りたいと思ひます。中央図書館の評価と点検についてです。本日の議論も含めて、皆様に記載をしていただいた評価シートにつきましては、総評を作成後、郵送にて承認をいただいた後、図書館長に提出するというところでよろしいでしょうか。

異議がなければ、今年度につきましては、本日この会議が終わった後、もしくは6月20日までに、同封してありました返信用封筒で事務局のほうにお届けください。それでは、中央図書館の評価と点検について説明をお願いします。

<中央図書館長より資料に基づいて説明>

○議長 ありがとうございます。

皆さん、本日評価シートをお持ちいただいていると思ひますが、館長からただいま説明のあった資料、また、本日の会議内容をもとに後日提出いただく

ことになっています。内容についてご質問、ご意見がございましたら、この場で議論していきたいと考えますが、よろしいでしょうか。

○委員 新聞記事に道内でLLブックを所蔵しているのが苫小牧市の図書館だけだということが載っていました。一般の方は障がい者向けの本というものが分からないのではないかと思うので、LLブックのような本の展示などがあつたら、一般の方が借りて障がい者の方に紹介するという形もあるのではないかと思いました。そうした展示のようなわかりやすいPRがあつたらすてきだなと感じました。

○館長 資料1の5ページ目に共催展示実施一覧がございますが、こちらにライトアップブルー展示ということで、あじさいの会さんと毎年連携させていただいています。そのなかで、障がい者の方々の本などの展示も実施しています。

○議長 それでは評価シートに従って、既に記入されている方もいるかと思いますが、運営計画1から順番にご意見などがございましたら議論していきたいと思えます。まずは運営計画1の「基礎的な図書館サービスの充実」に関して、ご質問やご意見はございますか。

それでは、運営計画2の「家庭生活及び職業上の課題や地域課題解決のための支援機能の強化」はいかがでしょうか。

では私から、個人ボランティアの方がいらっしゃるということですが、どのような活動をされているのか、具体的に教えていただけますか。

○館長 主に個人ボランティアの方々には、本の配架、本の書架整理の部門をお願いしています。

○議長 このスキルアップ研修の内容はどのようなものでしょうか。

○館長 例えば利用者端末の使い方や電子図書館の使い方、あとは自動貸出機の使い方などの研修を毎年行っています。

○議長 それを研修して来館者の方にご案内されるんですね。ありがとうございます。

あと、皆さんのほうからはないですか。

なければ、運営計画3に行きます。「教育的役割を重視した取組の推進」ですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

では、運営計画4に行きます。「魅力的かつ効果的・効率的な運営体制の構築」について、ご意見、ご質問はございませんか。

また私からですが、障がいをお持ちの方とか、高齢者の方向け、それから非

来館者向けのいろいろな工夫がとてもありがたいことだと思います。また、先ほど館長がおっしゃったように、どの世代も取りこぼしのないという、その言葉がとても心に残っています。これからもどうぞよろしくお願いします。

ほか、皆さんのほうから何かございませんか。なければ、議題の（3）令和5年度事業計画についてご説明をお願いいたします。

<中央図書館長より資料に基づいて説明>

- 議長 ありがとうございます。ただいまご説明いただきました令和5年度の事業計画について、ご意見、ご質問がございましたらお願いします。
私からですが、「出張！図書館！」というところに、とても引かれたのですが、ワークショップというのはどういう内容を想定されていますか。
- 館長 こちらは現在のところの計画ですが、北海道大学の研究林の森林資料館・記念館で読み聞かせをして、あわせて、研究林の職員の方々がワークショップを開催するというので、準備を進めている状態です。
- 委員 本州の図書館の情報などを聞いていますと、従来の本を読む場所の図書館ではなく、体験型のイベントを図書館が企画して、そのイベントを通してその図書館を利用していく、というパターンが最近増えてきているように感じます。苫小牧の図書館はとても立地がいいと思いますので、目の前にも自然がありますし、そういう意味でも、本を読むプラスアルファの、例えば「図書館を駆け抜けろ！」はそうだと思うのですが、体験する図書館というものを推し進めていくと、皆さんと接点が多くなっていくのかなというふうに感じています。
- 議長 私もとてもそれを感じていました。来館者が主体になって何か活動したり、体験したり、学び取って帰るというのは素晴らしいことだと思いますので、今後もよろしくお願いいたします。
ほか、全体を通してでも何かございませんでしょうか。
- 委員 雑誌のリサイクル市を開催していると思うのですが、昨年、参加した方で混雑してすごく大変だったという印象が残っているのですが、また行事として載っているのも、その辺りは改善されたのでしょうか。
- 館長 ご指摘のとおり、雑誌リサイクル市は毎年開催していきまして、図書館側としても混乱などがないような形で対応するため、毎年改善を重ねております。

令和5年3月の開催ではそのような混雑や混乱もなく、皆さんご希望の雑誌を持ってにこやかに帰られたとっております。

- 議長 ほか、いかがですか。
- 委員 何年か前に町内会で図書館の人に来ていただいて、子ども向けの読み聞かせをやっていただきました。そうしたら、子どもたちが本当に喜んで聞いてくれました。今はコロナでできませんが、小さい子をわざわざ図書館まで連れて来られなくても、各町内会の会館を利用してやっていただけるようになればすごくいいかなと思います。
- 議長 ありがとうございます。
- 本当に図書館の司書の皆さんは、子どもにそのときの人気の絵本をご存じなので、しっかり子どもたちの心を捉えてくださいます。出張図書館というのもありますので、活用の幅が広がることを願っています。
- ほか、何かありませんか。
- 委員 資料4の7ページにあった移動図書館の人数について、少ないところと多いところがあったように思いますが、こういったものに対する見直や方策のようなものがあるのでしょうか。
- 議長 この貸出資料数にばらつきがあるということですか。
- 委員 例えば必要性とか見直しなどが必要なかどうなのか。私は実感がなくて、実際に運営されてどのようにお感じなのかかなというのを知りたいなと思いました。
- 館長 人気のステーションと利用の少ないステーションはありますが、巡回先の検討はニーズに沿って毎年行っています。しかし、どのステーションにも固有のユーザーはいらっしゃると思いますので、利用が少ないからといってすぐに廃止というわけにもいきません。近くに図書館や図書コーナーがないという方々に対して移動図書館でカバーしており、そこも取りこぼしなく対応していきたいと思っておりますので、今後に関しましても、そのような事情を加味して見直し等検討していきたいと思っております。
- 委員 例えば自治体から依頼があれば行くとか、そのような融通性も今後含まれているのでしょうか。
- 館長 巡回先は年度ごとに決まっていますのですぐに対応は難しいと考えていますが、今後の検討材料にしたいと考えております。
- 委員 ありがとうございます。
- あと漠然としたお話なのですが、TRCさんも指定管理期間の5年、2期目

の最後ということで、2期のまとめ的な実情などをお聞きできれば、なるほどそういう方向性を向いているのか、あるいは市のほうも外部委託されて、これだけの費用対効果が上がっているんですよというようなお話があると、我々も興味深いのですがいかがでしょうか。

○館長 今年10年目ということで、あつという間の10年目だったなと感じております。その中で、子どもたちとスタッフが笑顔で話したりですとか、何げない会話ができていくようになったのは、やはりこの10年の私たちの取組の成果かなと感じております。

あとは、ボランティアさんなどの図書館に協力していただける方々から、温かい言葉をいただけるという関係性というのは、一朝一夕にできることではないと思っておりますので、この10年の重みかなと思っております。まだまだやりたいことはたくさんありますので、次期指定管理者も目指したいと思っております。

○委員 何かやりたいことができないというようなところはありますか。こうやりたいのだけれど、なかなか動かないですとか、逆にやろうと思っていなかったのに、こんなところで人気が出て困っていますというような、マンパワーが足りませんなど何かあれば。

○館長 これはどこの図書館にも言えると思いますが、新型コロナウイルス感染症というものが、私たちにとっては大きな課題でした。皆さんもそうだと思いますが、まさかコロナが来るとは誰しもが思っていなかったことですので、私たちの運営にとっても大きな壁になってしまったなと思っております。ですので、利用者数、そういう数値などもコロナがなければ一体どうなっていたのかなというところも日々考えております。

○委員 あと、中央図書館は先ほどもお話が出ていましたように、非常に立地的にいいと思っております。うちは西の果ての北洋大学ですから、図書館があるんですけど、誰も使ってくれない。一生懸命広告もさせてもらっていますが、地域の方のための講座やいろんな学習会をやっても、常連の方はおいでいただけますが、新しい方や遠い方というのはやはりなかなかおいでいただけないということがありますので、立地を生かした、または対象別などの集まりやすい方を考慮して、どのようにうまく図書館に毎回おいでいただけるような形にするのがいいのか。

逆に10代の方が著しく少ないということは、各学校にも図書室がありますから、その辺との兼ね合いで、学校では10代の方が学校で用が足せる。

その用が足せない部分は、やはり中央図書館に行かなきゃいけないというよ
うなすみ分けも加味していくと、もっと具体的にいろんな形が見えるのかな
ということを考えたりしています。

うちも生き残りのためにどうすればいいんだろうということを見ると、
すみ分けと共同と情報共有など、いろんなことを連動的にやらないといけな
いのかなと思っていますが、そういった中で、実は一番困っているのが予算
的な問題でして、うちも司書をもう一人欲しい等いろいろと思っているので
すが、なかなか採用できないこともあり、やりたいこともなかなかできない
ので、非常に困っているという現状があるものですから、中央図書館にもい
ろいろあったり、また、市のほうからも予算は来年増えるのか減るのかとか、
いろんな問題があって、どうされるのかなと思っている次第です。

○議長 たくさんご心配されて。ありがとうございます。

館長がおっしゃっていたように、コロナがとても大きな壁だったと思いま
すが、コロナがあってこそ行われた議論や工夫などもあったかなと思いま
す。また、今おっしゃっていただいたように、費用の面もこれからの議論だ
ったり、工夫だったりを重ねながら、みんなですてきな図書館づくりを応援
していけたらなと思います。

ほか、何かございますか。

○委員 市のほうから、もし可能であれば、外部委託されたメリットや効果などの有
無があれば。

○部長 総括的な話になるので、私のほうからお答えいたします。ここ10年を振り
返ってのお話をさせていただきたいと思えますけども、まず、指定管理者を
TRCさんをお願いして、今年で10年目ということで、これまでもお話に
あったとおり、いろいろな取組にチャレンジをしていただいているというこ
とでございます。それと、私のほうからなんですけども、図書館協議会に皆
さんのご意見、これを受け止めていただいて、速やかに対応していただい
ているのかなと思っております。そういうこともあって、やはり一番我々も着
目しているのが、やはり市民の利用者アンケートのことで、これが95%以
上の高い数値をずっと維持していただいているということで、これはやはり
指定管理者さんの努力のたまものだなということで受け止めております。
予算の話もございましたけども、一概にすぐに高くつけますとか、そういう
ことはなかなか言いにくい部分もあるんですけども、図書館の老朽化のお
話も、この市民のアンケートの中にもございましたので、できる限り予算措

置をできるように努力したいと思っております。

○議長 ありがとうございます。

そろそろご意見出は尽くしたでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日の議事について終了させていただきたいと思います。

拙い進行で申し訳ありませんでした。皆様のご協力のおかげで何とか終了することができました。進行を事務局へお返しいたします。

閉会 (午後3時)

<出席者>

○委員

一谷誠子	副会長
奥村訓代	委員
亀山仁美	委員
原口祐子	委員
八島恵利子	委員

○事務局

教育部	園田部長
同	斎藤次長
生涯学習課	河本課長
同	戸澤主任主事
同	仲世古主任主事
中央図書館	富田館長
同	広瀬副館長

<欠席者>

○委員

松井操人	会長
赤川明美	委員
和泉雅子	委員
坂木真吾	委員
松田奏保	委員